

豊 議 議 第 7 2 2 号
令和7年（2025年）2月20日

豊中市議会議長
今 村 正 様

市民福祉常任委員会

委 員 長 山 本 一 徳

副委員長 藤 田 浩 史

委 員 横 尾 しずか

委 員 石 原 準 司

委 員 中 岡 裕 晶

委 員 大 野 妙 子

委 員 中 島 紳 一

市民福祉常任委員会視察調査報告書

次のとおり、視察調査の結果を報告致します。

記

- | | |
|--------------------------------|---|
| 1. 日 時 | ○ 令和6年10月29日（火）～30日（水） |
| 2. 調 査 都 市
及び調査内容 | ○ 東京都豊島区
・ヒアリングフレイルについて
・終活情報登録事業について |
| | ○ 東京都八王子市
・スマートフォンアプリを活用した持続可能な高齢者の
健康づくりについて |
| 3. 調 査 結 果
の 概 要 及 び
意 見 | ○ 別 紙 |

調査結果の概要及び意見

I. 東京都豊島区 ヒアリングフレイルについて、終活情報登録事業について

(1) 視察の目的

豊島区では、令和3年からヒアリングフレイルの取組み、令和5年から就活情報登録事業について取り組まれており、現在本市において取り組まれている高齢施策の参考とすることを目的とする。

(2) ヒアリングフレイルの取組みの経緯・内容等

1. ヒアリングフレイルの取組背景

豊島区が単身高齢者世帯の割合が全国1位であり、日本一の“高齢者にやさしいまち”を進めている。また、以前よりフレイルの概念を市民的に浸透させてきた結果、ヒアリングフレイルの普及啓発につながった。

ヒアリングフレイルが社会参加、認知症への影響があるということについて、科学的なエビデンスが出ている。そういった中で、平成30年度より補聴器購入助成事業開始、令和2年度よりヒアリングフレイルに関する講演会を開催、令和3年度よりヒアリングフレイルスクリーニングを開始、令和5年度よりヒアリングフレイル講演会・相談会を開始、補聴器購入助成事業を拡充している。

2. ヒアリングフレイルの取組内容

豊島区ヒアリングフレイルスクリーニングとして、65歳以上の高齢者を対象に区内でアプリを活用して聴力検査を行う。語音聴取率60%未満の方に豊島区医師会の耳鼻咽喉科を案内する。

3. ヒアリングフレイルの効果・課題

ヒアリングフレイルアプリ活用により、語音聴取率60%未満は30.0%となっている。区民からは「耳鼻咽喉科に行くことはハードルが高いが、気軽に相談できてよい」「難聴が、認知症や身体にも及ぼす影響を初めて知った」などの声があった。令和5年12月から令和6年2月にとったアンケートでは、対象者22人中、返信数は16人であり、認知症と難聴について関係していることを知っているのは半数以上で普及啓発が進んでいること、医療へにつながっていることが見て取れた。

課題としては講演会・相談会にヒアリングフレイル参加者をつなぎやすいよう開催日程を変更することや早めの周知などがある。

(3) 終活情報登録事業の取組みの経緯・内容等

1. 終活情報登録事業の取組背景

(別紙)

豊島区が単身高齢者世帯の割合が全国1位であり、一人暮らしは社会的孤立を生みやすく、不健康や消費者被害、生活の質の低下につながる恐れがある。コロナ禍で今後の生活に不安を感じる人が増える傾向がある中で、「一人暮らしでも安心」「いざというときの安心」をサポートする事業として実施。

2. 終活情報登録事業の取組内容

目的は人生の終末を迎えるにあたり、介護、葬儀、相続などについて希望をまとめ準備を行うことについて、区民の不安や悩みを解消するとともに、今後の生活をより豊かで充実したものとする。

高齢者の終活に関する不安を解消するための相談体制の構築、本人の意向を尊重した終活の実現のための生前契約等の支援、もしもの時に自分の想いを正しく意思表示できる仕組みづくりとしての終活情報登録事業の実施。

3. 終活情報登録事業の効果・課題

相談業務では、令和2年度から令和5年度までの実人数で1563人が相談、終活情報登録事業では43名が登録をしている。終活情報登録事業について、利用者からは「いざという時に親族に連絡が入るので安心」などの声があった。相談の傾向としては、身寄りがなく、緊急連絡先に書く人がいない場合、終活情報登録事業をきっかけに死後事務委任契約の相談になるケースが多いなどがある。普及啓発としては、講演会、出張講座、終活あんしんノート（エンディングノート）の作成・配布を行っている。

今後の課題としては、相談者の約半数が単身世帯であり、いざという時に頼れる親族が身近にいない、「相談・遺言」「葬儀・納骨・お墓」に関する相談が多くもしもの時に備えておきたいというニーズがある、終活情報登録事業の更新など適切な運用がいる。こういった点から相談者への見守り体制、死後事務委任など具体的な支援事業の方向性について検討を進めており、令和6年度から社会福祉協議会で事業化を進めている。

(4) 各委員の所感

- ヒアリングフレイル対策では、豊島区ではフレイルということが様々な取り組みの中で認知が進んでいて、その中でヒアリングフレイルの対策がどれくらい効果があるかということが社会参加の面、認知症への危険因子などからエビデンスをもって行われていることが分かりました。補聴器助成も行われており、助成額を上げることで助成件数が大幅に増えており、助成制度を含めての対策の効果についても学ぶことができました。終活サポート事業では、豊島区が全国で一番、高齢単身世帯の数が多く、区長のリーダーシップの下で行われた事業とのことでした。終活の取り組みをすることで、介護や認知状態になる前に高齢者の相談にのることができるなどメリットもありますが、一方で個人情報の取り扱い

いなど様々な課題があることも分かりました。

- 終活については、エンディングノートの作成など人生の最終章において自分のやりたいことや子孫に伝えたいことなどを認識する手段として有効なものであり、まだ元気なうちから終活について考えていくことの重要性を感じた。また、ヒアリングフレイルについては、認知症につながる可能性が高く、若年期からの対応をしっかりとやっていなくってはならない。
- 高齢者人口に占める一人暮らし高齢者の割合が日本一の豊島区では、いざというときの安心をサポートする事業として終活安心センターや終活情報登録事業を実施されていた。エンディングノートについては、受け取った後に書いてもらうというハードルがあることがわかった。
- ヒアリングフレイルについて広く周知し、アプリを活用した簡易スクリーニングを丁寧に行うこと、医師会等と連携した講演会や相談会などから、耳鼻咽喉科受診、難聴の早期発見、早期治療へつなげることが有効であることが確認できました。補聴器購入費助成は、財源確保がカギになることも再認識できました。また、相談業務や終活情報登録事業、エンディングノートの配布、生前契約等費用助成などの終活サポート事業の先進的事例を学ばせていただき、本市が取り組みを進めるうえでは、個人情報や親戚間のトラブルを含め事業の適切な運用に留意することが大事で、見守り体制を充実すること、死後事務委任の必要性も確認ができました。
- 高齢者（65歳以上）を対象に、本人死亡や意思表示が出来ない場合に警察・消防等へ終活関連情報を開示できる「終活サポート事業」は、秘匿性の高い情報も扱うことから、将来的な争いの元になる等、事業化にあたっての懸念事項について調査した。リスクも孕む取り組みと見受けられるだけに、現場のニーズに果敢に応えようとする区の出組のきめ細やかさが感じられた。
- 令和6年6月市民の皆様とともに認知症専門医を招いて「認知症講座」をした時、医師より「認知症の原因のうち難聴は最も修正可能な要因」と述べられ早期の予防を呼びかけられましたので「ヒアリングフレイル」の取り組みは重要だと認識していました。特に、補聴器相談医、認定補聴器技能者による相談会を実施され、補聴器補助購入助成事業も実施されるなど大変興味深い内容を学ばせて頂きました。まずは、令和6年度日常の見守り・入院支援・死後事務委任等社協さんで事業化されておりまずは取り組みに対して、評価させて頂きたいと思います。一方で、

(別紙)

生前契約等費用助成や終活情報登録事業の（登録者の生活状況の変化の対応）適切な運用などの課題もあるとのことで、学ばせて頂いた事を念頭に本市の政策に活かしていきたい。

- 豊中市の地域の皆様からも、よく相談される体調の不振や聞こえにくいことなどとともに、人生の終活のことは大変重要で人生の最終章は、自分で決めることが大事ですし、決められるときに、やれるときに相談できる窓口は大事であることがわかりました。今後のご相談に生かしたい。

Ⅱ. 東京都八王子市 スマートフォンアプリを活用した持続可能な高齢者の健康づくりについて

(1) 視察の目的

八王子市では、令和2年度からスマートフォンアプリを使った高齢者の健康づくりについて取り組まれており、現在本市において取り組まれている高齢者向けの施策の参考とすることを目的とする。

(2) スマートフォンアプリを活用した持続可能な高齢者の健康づくりの取組みの経緯・内容等

1. スマートフォンアプリを活用した持続可能な高齢者の健康づくりの取組背景

介護予防事業を自治体が行っても、健康関心層が中心であり、多くの人には届かない。その中で、対象者を広げようとすれば、コストがかかり、「補助金がなくなったら財政的に維持できない」という事態にもつながる。スケールメリットを生かして、必要なコストを稼ぐ事業を行い、持続可能な事業をつくっていくこともめざす。

2. スマートフォンアプリを活用した持続可能な高齢者の健康づくりの取組内容

株式会社ベスプラが無料で公開している「脳にいいアプリ」をベースにしてつくられた「てくポ」を活用。「てくポ」では、健康増進につながる活動に加えて、ボランティア活動やイベント参加でポイントがたまるように機能が追加され、フレイル予防の「運動・栄養・社会参加」をバランスよく促すことを目指す。貯めたポイントは地域のお店や2次元コード決済で利用可能となっている。

3. スマートフォンアプリを活用した持続可能な高齢者の健康づくりの効果・課題

令和3年度の実証データでは、脳トレ実施率を7倍に高めることができた。登録者数は2024年9月現在で9634人。性別では、男性40.6%、女性59.4%とこれまで介護予防事業への巻き込みが難しかった男性の参加率を引き上げている。

課題としては、ユーザー支援をどのように進めるか、インストール登録の手順をわかりやすく広げていくか、ポイントが利用できる場所をどのように増やすか、ポイントの原資をどのように獲得するかがある。

その解決策として、ウェルネスプラットフォームとして、アプリの活動データから健康づくりに資するサービスを紹介し、広告費を得る仕組みの構築する

こと、E B P Mプラットフォームを行い費用対効果の算出、ジョブ・ボラマッチングプロジェクトを行い、本人の関心に合わせた仕事やボランティアのマッチングを行うことを進めている。

(3) 各委員の所感

- 介護の問題にある利用者数が増えればコストがかかってしまうという課題をアプリを利用して、企業と連携することで解消していく取組みで勉強になりました。アプリの利用という高齢者にとっては苦手とするところでも一万人近くが登録し、そのうち6割が活用しているということで、ポイント付与をすることで、ただアプリを使おうというよりも有効に介護予防につながっていることが分かりました。
- 介護予防事業については、介護費・医療費削減に向けての官民一体となつての取組みについて成果連動型の委託料支払いの効果を今後も見ていながら本市の取組みに活かせるものは取り入れていきたい。アプリを使用しての健康推進については、今後スマホを使える高齢者も増えていくことが確実な中で、いかに実効性を高めることができるプログラムを提供していくかが重要だと感じた。
- 自治体の介護予防事業の普及活動を実施しても関心の高い方にしかしてもらえないという問題が。そこで八王子市は、官民連携で成果連動型介護予防事業を駆動するE B P M ビジネスプラットフォームを創設するなど、市場サービス活用とD Xにより、持続可能な社会モデルづくりをされていた。健康習慣とアプリポイントを結びつけることで健康寿命を伸ばす取組みについては、ぜひ本市でも取り入れていきたい。
- ICTを活用し健康無関心層も含めた多くの高齢者が無理なく・楽しく・いつまでも健康を守れるような習慣づくりを後押しできる仕組み“てくポ”を学ばせていただき、持続可能な介護予防の取組みとして、持続可能なビジネスモデルの構築、リバースピッチからの実証実験、アジャイル開発、企業による地域課題の解決などの考え方が参考になりました。
- 介護予防に関しては、とかくポピュレーションアプローチがとられることから、コストが対象者数に比例して増大する懸念がある。その点をD Xによって持続可能性を模索する事業構築スタイルが、まず参考となった。また、ヘルスケア部門におけるPFS（成果連動型委託）事業の構築にあたっては、数年にわたる事業効果測定・推計

方法を検討するという土台（EBPMに基づいていると言うに足るベースデータの蓄積）を築いた上で、着実に適用開始しようとする事業進捗の様を見せられた。ここ数年の自身の政策課題推進に大きな示唆を与えてくれた。感謝したい。

- 介護予防の取組の限界から、今回学んだ、スマートフォンアプリを使っの介護予防ポイント制度「てくポ」は、ガバメントピッチでの業者選定をされ、リバースピッチと呼ばれる手法の一つとして取組まれているとの事で大変に興味ある内容でした。わたくしも、少子高齢化の中で地域課題を行政だけで解決することは困難になってきていると思います。その中で市民・企業・行政が連携してそれぞれの強みを生かしながら課題解決できる取組みとなるよう期待するとともに、学ばせて頂いた事を新たな市の政策の前進につなげていきたい。
- 豊中市としては、まだハードルが高いように思いましたが、民間企業との連携やスマホのポイント付与など先進的な取り組みでありました。豊中市の取り組みを検証して、今後に生かせるように取り組みたいと思います。スマホの普及と健康志向を生かす取り組みの推進に努力したいと思いました。